

# 2022年第3四半期 決算説明資料

2022年8月9日

**SPRIX** 株式会社 スプリックス

(東証プライム 7030)

## MISSION

---

「教育」を通して、世界中の人に  
「人生の新たなステージ(春)」を届ける。

## VISION

---

「教育」でNo.1へ。

---

1

# 2022年第3四半期 決算説明

---



季節的に低調な第3四半期も

**森塾を中心として  
計画通りに推移**

# 連結の影響－前期との比較

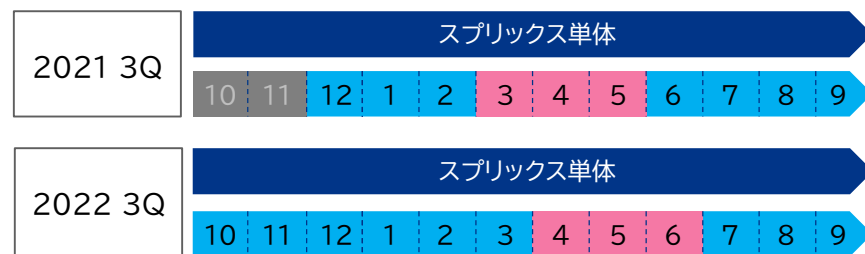
## 〔株)湘南ゼミナールの連結範囲〕

会計年度	連結期間	1Q	2Q	3Q	4Q								
前期 (2021年9月期)	通期10か月 連結寄与	スプリックス単体											
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		(株)湘南ゼミナール(10か月分)											
今期 (2022年9月期)	通期12か月 連結寄与	スプリックス単体											
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		(株)湘南ゼミナール(12か月分)											

(注)特に断りのない限り、本資料で(株)湘南ゼミナールは、スプリックスの子会社である株式会社湘南ゼミナールを指します。

# 2022年3Q(2022年4-6月)一決算概要

- 新年度の4月から夏期講習前の6月までの期間なので、生徒数が少ない期間
- 森塾を中心に計画通りに推移
- (株)湘南ゼミナールの「業績寄与月」の違いによる影響が大きい



(単位:百万円)	2021年3Q (実績)	2022年3Q (実績)	増減金額 (増減率、%)	要因
売上高	6,160	6,154	△6 (△0.1%)	<b>売上高</b> ・スプリックス単体は、森塾の好調により2億円の増収 ・(株)湘南ゼミナールは、2021年3Qに好調な3月が含まれ低調な6月が含まれない「業績寄与月」の違いが発生しており、2億円の減収
営業利益 (利益率、%)	△56 (△0.9%)	△270 (△4.4%)	△214 (△-%)	<b>営業利益</b> ・スプリックス単体は、昨年のCMにかかる広告宣伝費用がなくなり1億円増益 ・(株)湘南ゼミナールは、通年で利益が最も出にくい6月を含み、利益が確保できる3月を含まない「業績寄与月」の違いにより、3億円の減益
EBITDA (利益率、%)	219 (3.6%)	14 (0.2%)	△205 (△93.6%)	
親会社に帰属する 純利益 (利益率、%)	△139 (△2.3%)	△180 (△2.9%)	△41 (△-%)	

# (参考)業績寄与月調整後の2022年3Q(2022年4-6月)

- 業績寄与月の違いを調整し、4-6月同士で前年比較すると、増収増益



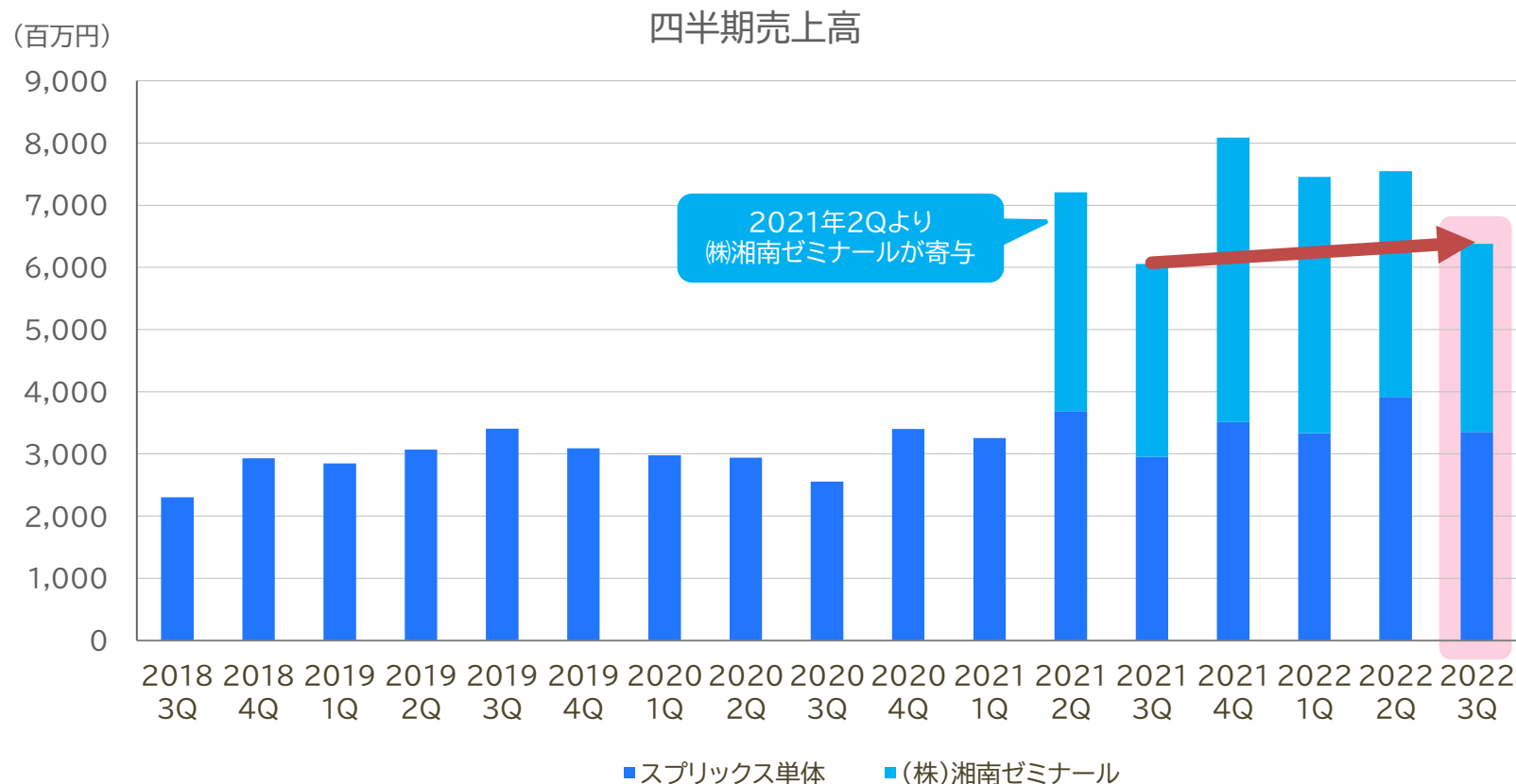
(単位:百万円)	2021年3Q (調整後実績注)	2022年3Q (実績)	増減金額 (増減率、%)	主な要因
売上高	5,927	6,154	227 (+3.8%)	+2億円 森塾増収 (うちスプリックス単体が+1.7億円)
営業利益 (利益率、%)	△335 (△5.6%)	△270 (△4.4%)	65 (-%)	+1億円 広告宣伝費減少 △0.5億円 研究開発費増加
EBITDA (利益率、%)	△60 (1.0%)	14 (0.2%)	74 (+123.3%)	

(注)業績寄与月調整後の実績

2021年3Qの業績から (株)湘南ゼミナールの2020年3月の業績を控除し、同年6月の業績を加えて算出。

# 2022年3Q一売上高の分析(同期間の業績)

- 連結・単体ともに森塾事業が業績に寄与し前年同期比で増収
- スプリックス単体：森塾の好調で増収
- (株)湘南ゼミナール：単体同様森塾が好調も、湘南ゼミナール、河合塾マナビスがほぼ横ばい

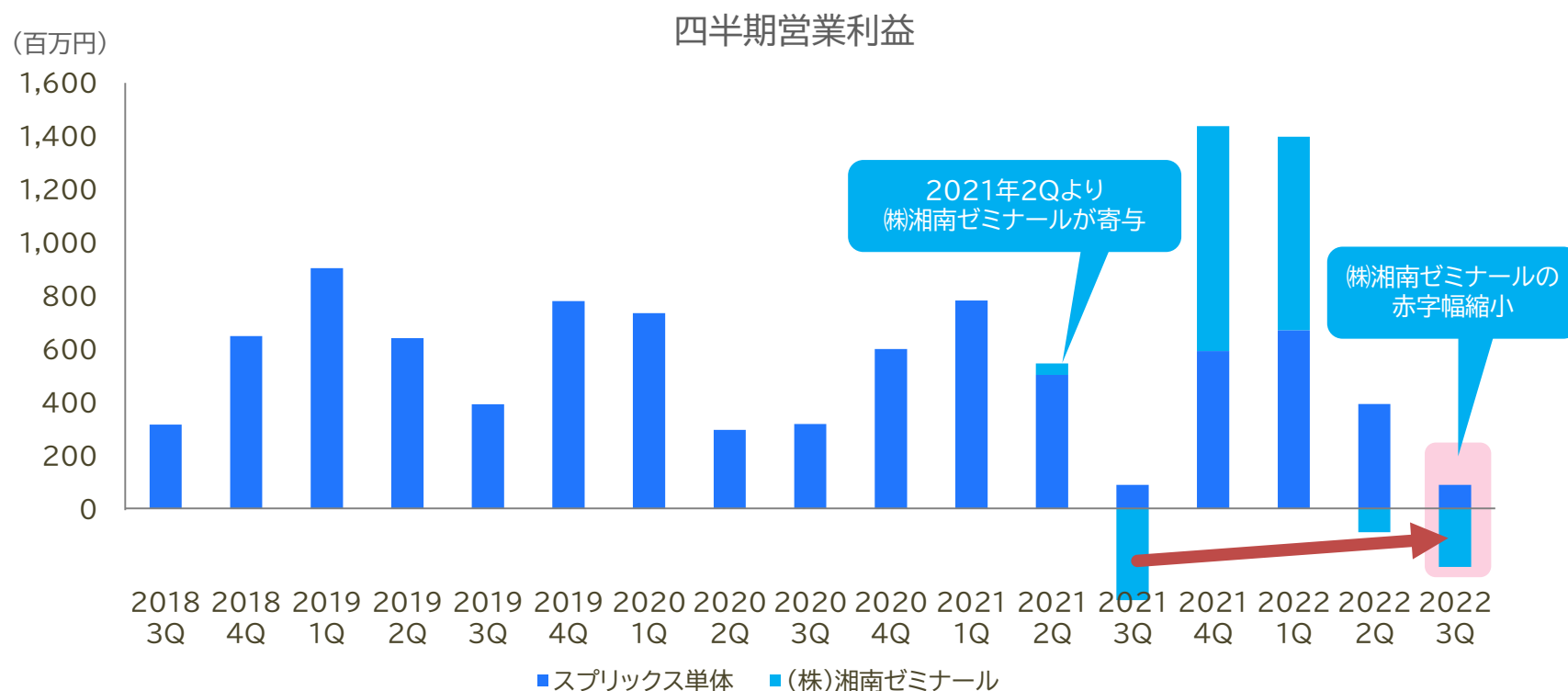


(注) スプリックス単体と(株)湘南ゼミナールの営業成績を表す連結相殺前の数値であり、同期間の四半期業績を示しております。従って、合計値は連結売上高とは異なります。



# 2022年3Q—営業利益の分析(同期間の業績)

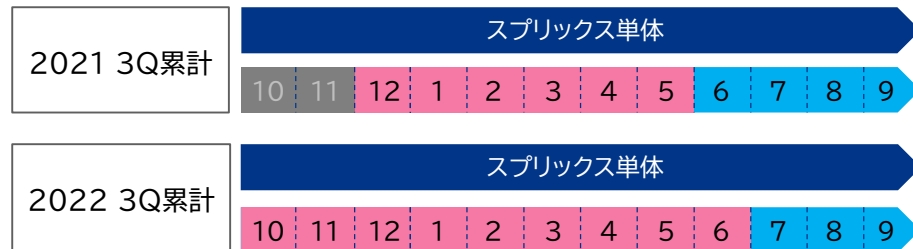
- スプリックス単体：研究開発費を計画通りに支出するも、昨年支出したTVCM等の大口広告宣伝費が無くなったため、営業利益横ばい
- (株)湘南ゼミナール：PMI効果によるコスト削減、人員の適正配置等により赤字幅縮小



(注) スプリックス単体と(株)湘南ゼミナールの営業成績を表す連結相殺前の数値であり、同期間の四半期業績を示しております。従って、合計値は連結営業利益とは異なります。

# 2022年3Q累計(2021年10月—2022年6月)—決算概要

- 森塾を中心に計画通りの業績推移
- (株)湘南ゼミナールの「業績寄与期間」の違いによる影響



(単位:百万円)	2021年 3Q累計 (実績)	2022年 3Q累計 (実績)	増減金額 (増減率、%)	主な要因
売上高	16,846	21,109	4,263 (+25.3%)	<b>売上高</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプリックス単体は、主に森塾の好調による増収6億円とその他の事業好調による増収1億円により、合計で7億円の増収</li> </ul>
営業利益 (利益率、%)	1,392 (8.3%)	1,211 (5.7%)	△181 (△13.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)湘南ゼミナールは、運営する森塾がけん引し2億円の増収</li> <li>・(株)湘南ゼミナールは、2021年3Qの連結対象期間が12-5月の6か月なのに対し、2022年3Qは10-6月の9か月。2020年10月、11月、2021年6月の3か月分が増加する「業績寄与期間」の違いにより34億円の増収</li> </ul>
EBITDA (利益率、%)	1,972 (11.7%)	2,057 (9.7%)	+85 (+4.3%)	
親会社に帰属する 純利益 (利益率、%)	788 (4.7%)	741 (3.5%)	△46 (△6.0%)	<b>営業利益</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプリックス単体は、主に新規事業にかかる研究開発費を計画通りに積極支出し、2億円の減益</li> <li>・(株)湘南ゼミナールは、主に「業績寄与期間」の違いにより0.3億円の増益</li> </ul>

# (参考)業績寄与期間調整後の2022年3Q累計(2021年10月—2022年6月)

- 業績寄与期間の違いを調整し、10-6月  
同士で前年比較しても増収
- 営業利益は、のれん償却と研究開発費の  
積極支出をこなして、ほぼ横ばい
- EBITDAは増益

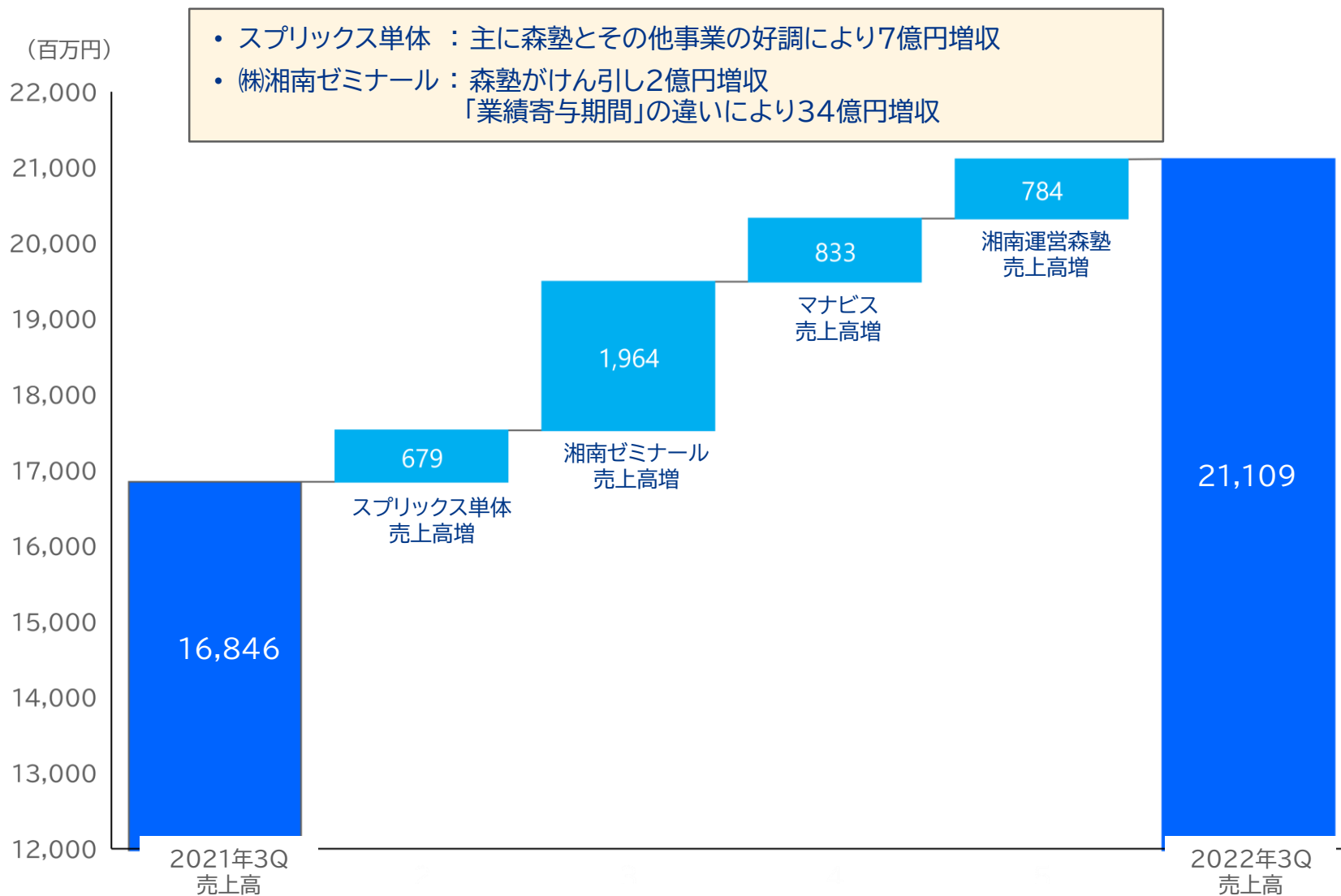


(単位:百万円)	2021年 3Q累計 (調整後実績注)	2022年 3Q累計 (実績)	増減金額 (増減率、%)	主な要因
売上高	20,226	21,109	883 (+4.4%)	+7億円 森塾 (うちスプリックス単体が+6億円) +1.5億円 その他事業
営業利益 (利益率、%)	1,213 (6.0%)	1,211 (5.7%)	△2 (△0.2%)	△1.4億円のれん償却あるも、好調な 森塾利益が寄与し略不変
EBITDA (利益率、%)	1,921 (9.5%)	2,057 (9.7%)	136 (+7.1%)	のれん勘案後では増益

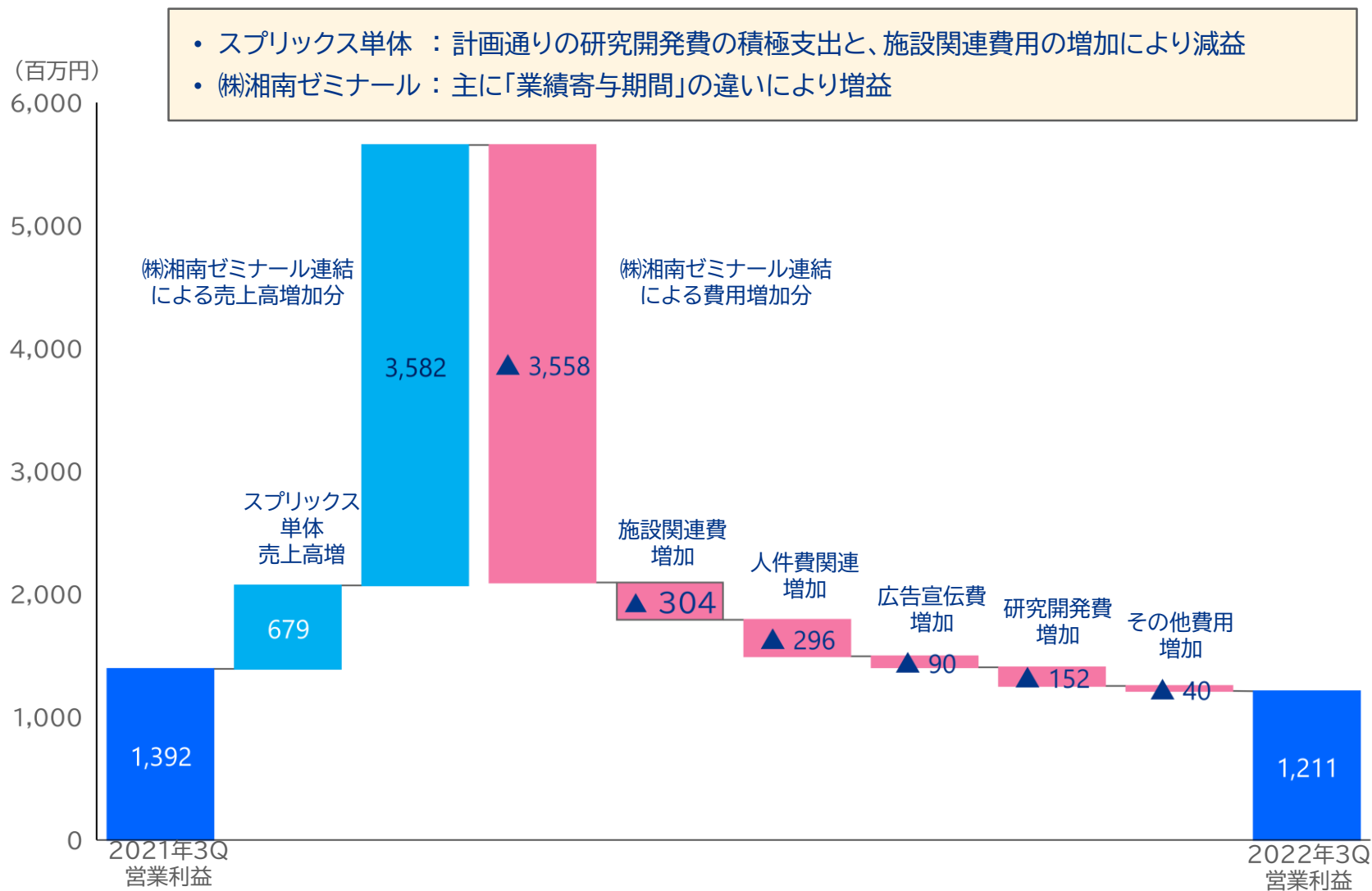
(注)業績寄与期間調整後の実績

2021年3Q累計の業績に、(株)湘南ゼミナールの2020年10月、11月及び2021年6月の3か月分の業績を含めたもの

# 2022年3Q累計一売上高の分析（前年同期比の差異）





# 2022年3Q累計一営業利益の差異分析（前年同期比）



# 2022年3Q累計一セグメント別業績






- コロナ禍においても森塾を中心に塾事業は堅調
- その他事業も総じて計画通り。

(単位:百万円)	売上高	営業利益	要因・トピックス
	10,642	2,341	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍においても引き続き業績は堅調</li> <li>● 湘南ゼミナール運営の森塾もシナジー効果で売上・営業利益ともに増加</li> </ul>
	6,397	607	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長のための土台固め期間であり、新規出店は抑制</li> <li>● PMI効果によるオペレーションの効率化で販売管理費を抑制</li> </ul>
	2,129	124	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長のための土台固め期間であり、新規出店は抑制</li> <li>● 生徒数は堅調に伸びるも、平均コマ数に課題</li> </ul>
その他   	2,035	△155	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年の教科書改訂による特需により好調だったコンテンツ(フォレスト)売上が減少</li> <li>● そら塾の順調な立ち上がり</li> <li>● 新規事業にかかる計画通りの積極的な研究開発、広告宣伝等の投資を実施</li> <li>● PMI効果によるコスト削減等実施</li> </ul>

(注) 2022年9月期より上記セグメントに分けて業績を開示

# 2022年9月期一セグメント別トピックス

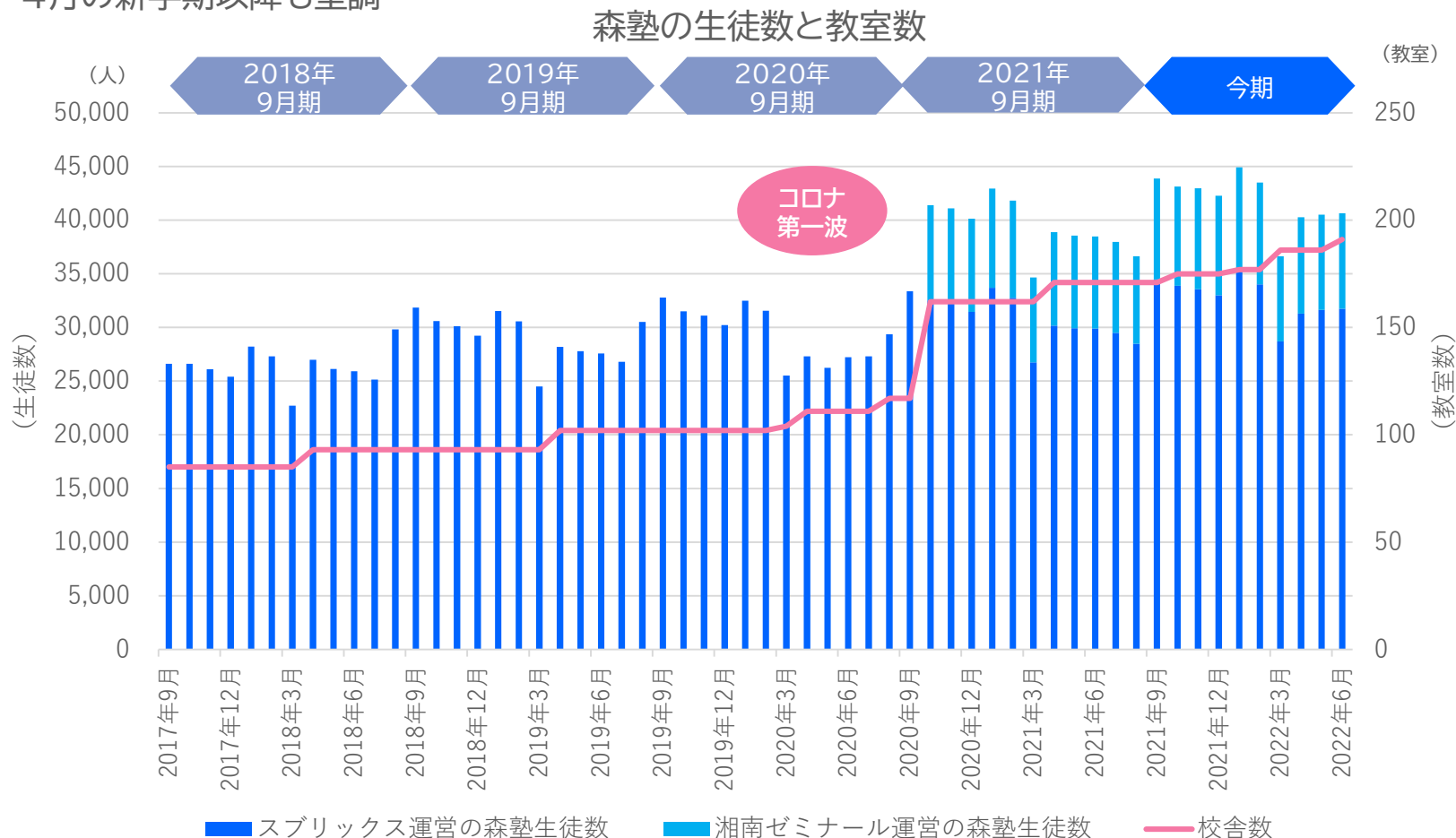
2022年9月期(通期見込み)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年3月末で、関東圏に9教室開校</li> <li>2022年6月末に、さらに関東圏に7教室開校 <b>New!</b></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年2月に、3教室開校</li> <li>新たに立ち上げた「横浜翠嵐Vコース」注力と、湘南ゼミナール小中部の強化</li> </ul>
<p><b>河合塾マナビス</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年2月に、岡山に新規開校</li> </ul>
<p>その他</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>現役中学生の人気動画クリエイターひまひまさんとのコラボ企画実施</li> <li>TOKYO MX「カンニング竹山のイチバン研究所」で紹介 <b>New!</b></li> </ul>
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>自立学習 REDがAI タブレット学習塾 生徒数 No.1を獲得 ※</li> <li>2022年9月末までに、さらに20教室程度開校を予定 <b>New!</b> (期末教室数200教室超を見込む)</li> </ul>
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生向け教材開発のため、河合塾との業務委託契約を締結 <b>New!</b></li> </ul>
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング能力検定認定会場が2,000会場を突破 <b>New!</b></li> </ul>

※ 日本マーケティングリサーチ機構調べ

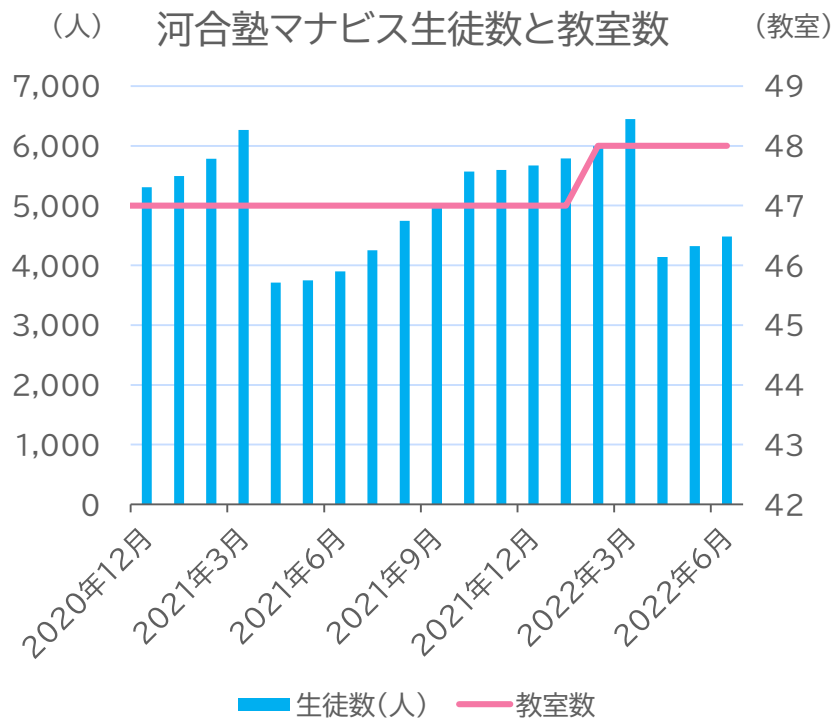
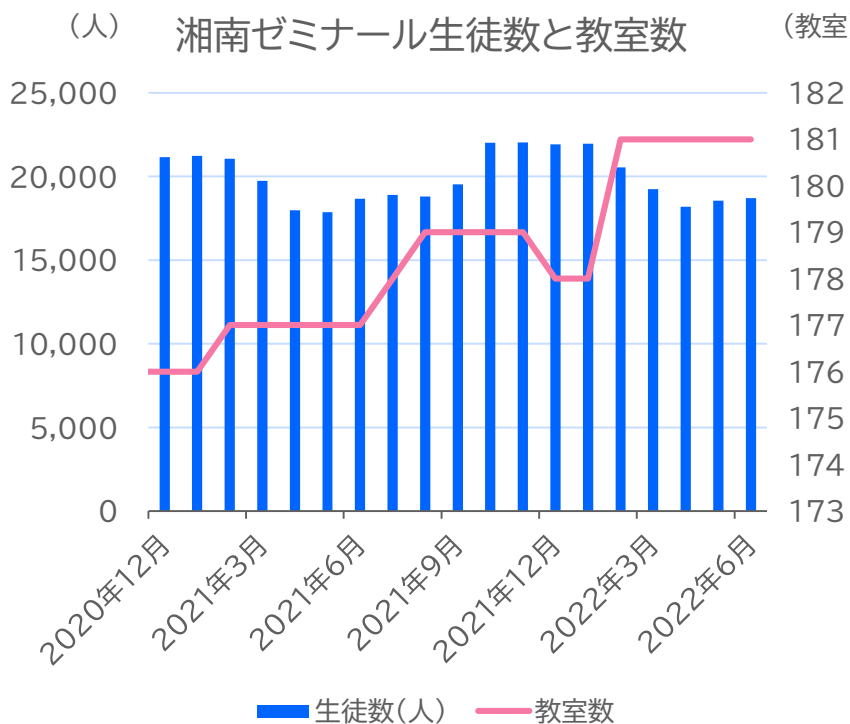
# (参考)森塾の合計生徒数と教室数

- 2022年6月に7教室を新規開校(東京2校、埼玉2校、茨城1校、栃木2校)
- 2022年9月期の出店計画を達成(2022年6月末:191校)
- 4月の新学期以降も堅調





# (参考)湘南ゼミナールと河合塾マナビスの生徒数と教室数



## 通期業績予想と進捗状況について

---

1. 2022年3Q:期初予想に対する進捗状況
2. 通期業績予想は達成可能
3. 営業利益の季節変動について

# 1. 2022年3Q:期初予想に対する進捗状況

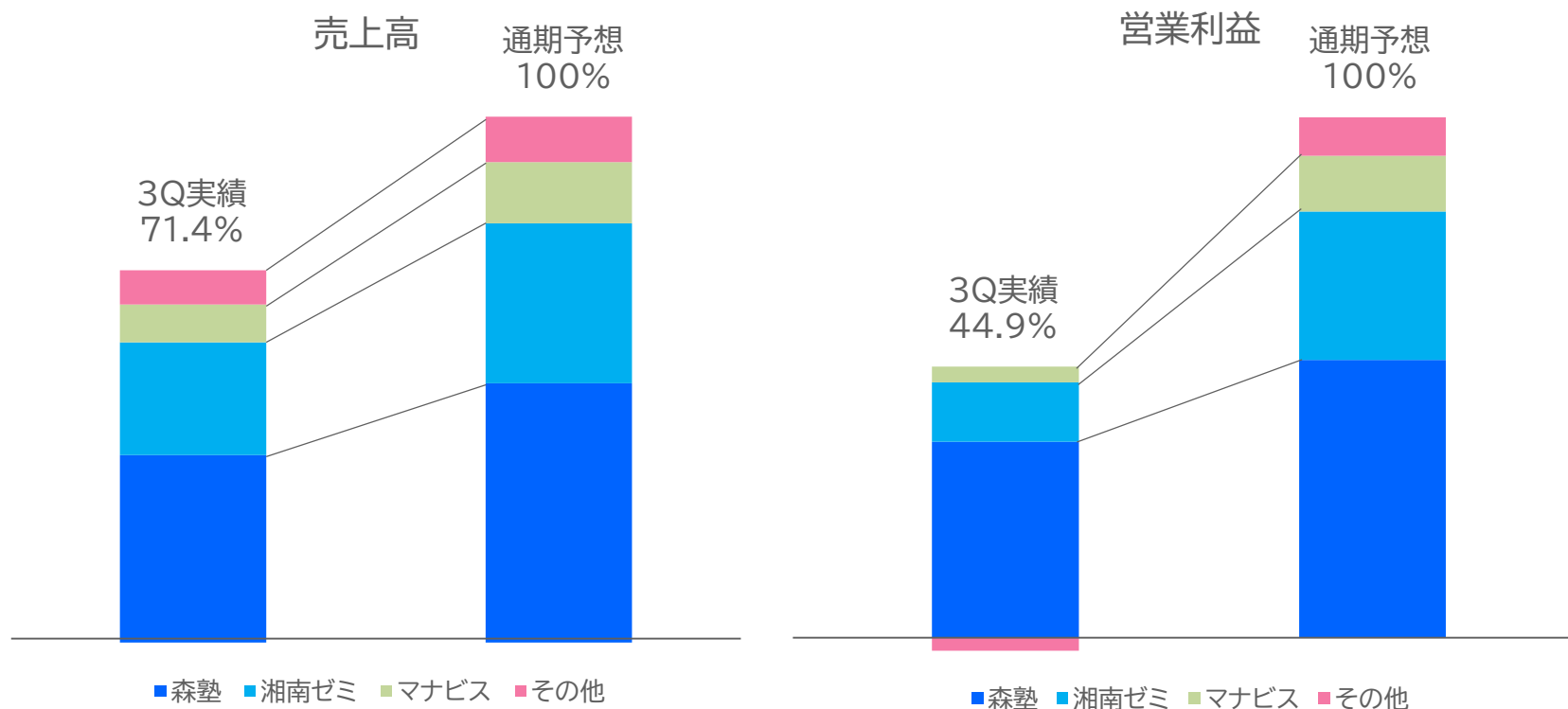
- 売上高、営業利益ともに計画通りの進捗状況
- 期初予想は据え置き

(単位:百万円)	2022年9月期 (予想)	2022年3Q (累計実績)	進捗率 (%)
売上高	29,546	21,109	71.4%
営業利益 (利益率、%)	2,699 (9.1%)	1,211 (5.7%)	44.9%
EBITDA (利益率、%)	3,917 (13.3%)	2,057 (9.7%)	52.5%
親会社に帰属する 純利益 (利益率、%)	1,755 (5.9%)	741 (3.5%)	42.2%

## 2. 通期業績予想は達成可能

- 売上高 : ほぼ計画通り進捗
- 営業利益 : 湘南ゼミナールと河合塾マナビスの利益が大きく伸びることに加え、研究開発費の支出ペースが鈍化する計画であり、当初計画通りの着地を見込む

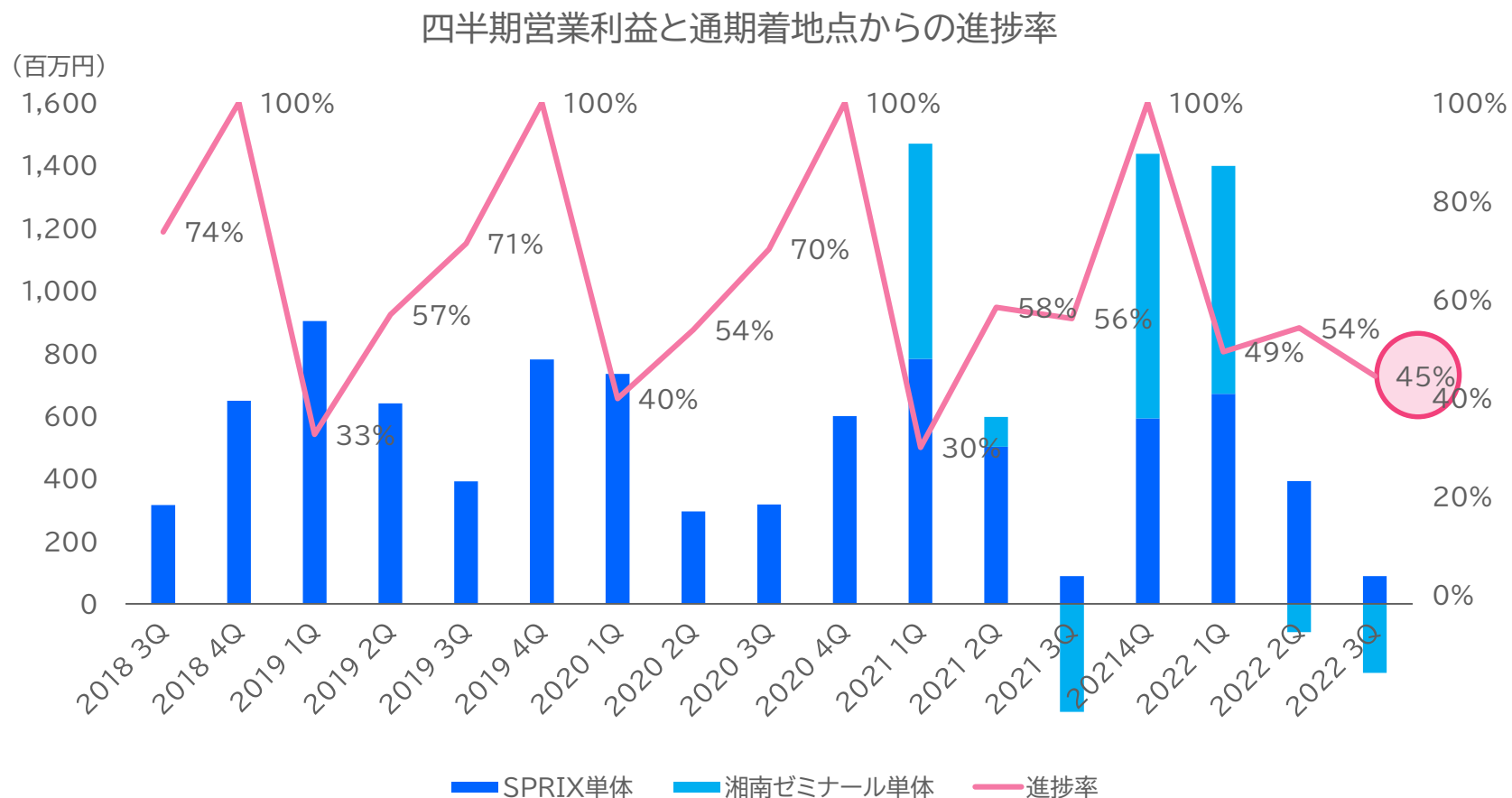
### 3Q実績と通期予想の進捗状況



(注)その他には、フォレスタ、RED、そら塾、ダンスヴィレッジが含まれます。

### 3. 営業利益の季節変動について

- 季節性により、1Qと4Qで利益の大半を計上
- (株)湘南ゼミナールグループ化以降は季節性の影響はより顕著に

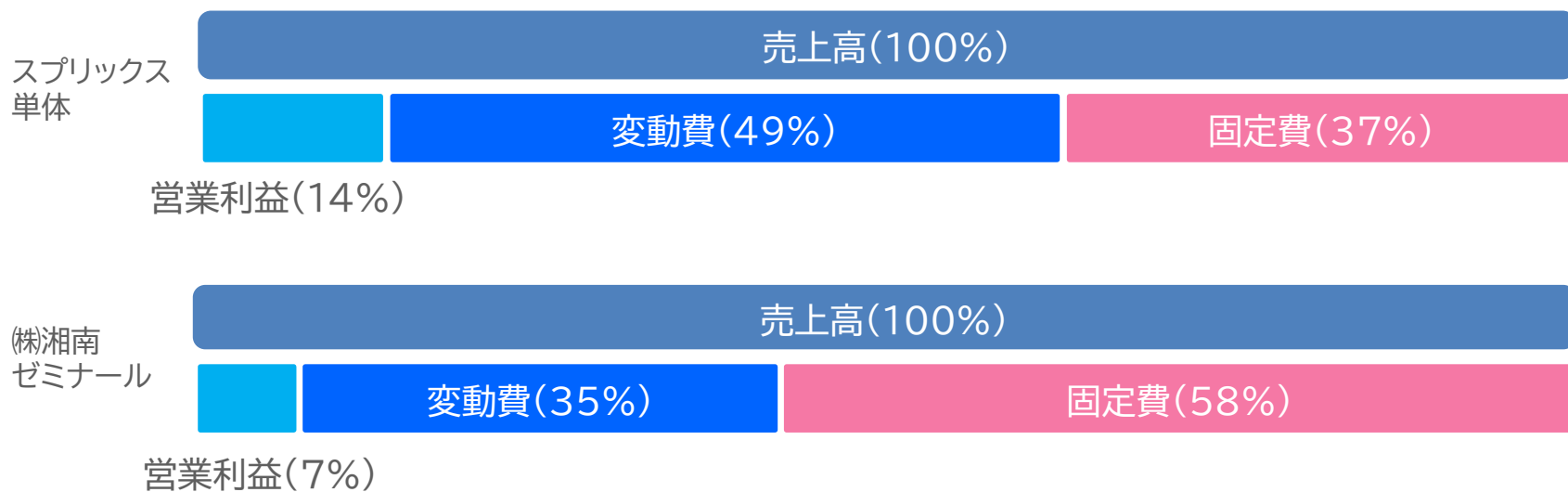


(注) スプリックス単体と(株)湘南ゼミナールの営業成績を表す連結相殺前の数値であり、同期間の四半期業績を示しております。従って、合計値は連結営業利益とは異なります。

### 3. 営業利益の季節変動について

- スプリックス単体は変動費率が高く、(株)湘南ゼミナールは固定比率が高い
- 固定比率の高い(株)湘南ゼミナールは、スプリックス単体に比べ、売上高の季節変動(1Q、4Qが大きく、2Q、3Qが小さい)に伴う、利益変動が激しい

スプリックス単体と(株)湘南ゼミナールの費用構造の違い



スプリックス単体は2021年9月期の実績値、(株)湘南ゼミナールは2020年10月～2021年9月の実績値累計を基に算出。

## (参考資料) データで見るスプリックス(ファクトシート)

(単位:百万円)	2018年9月期 12か月 (単体)	2019年9月期 12か月 (単体)	2020年9月期 12か月 (連結)	2021年9月期 12か月 (連結)	2022年9月期 3Q(9か月) (連結)
売上高	10,451	11,410	11,843	25,901	21,109
営業利益	2,467	2,741	1,787	2,437	1,211
EBITDA	2,569	2,851	1,937	3,385	2,057
総資産	9,967	10,861	11,485	19,277	17,445
純資産	6,469	7,642	8,091	8,864	8,899
現金及び現金同等物の期末残高	6,825	6,819	7,308	6,163	4,976
自己資本比率(%)	64.9	70.4	70.2	45.9	50.8
売上高営業利益率(%)	23.6	24.0	15.0	9.4	5.74
EBITDAマージン比率(%)	24.5	24.9	16.3	13.0	9.7



教育でNo.1へ

SPRIX